

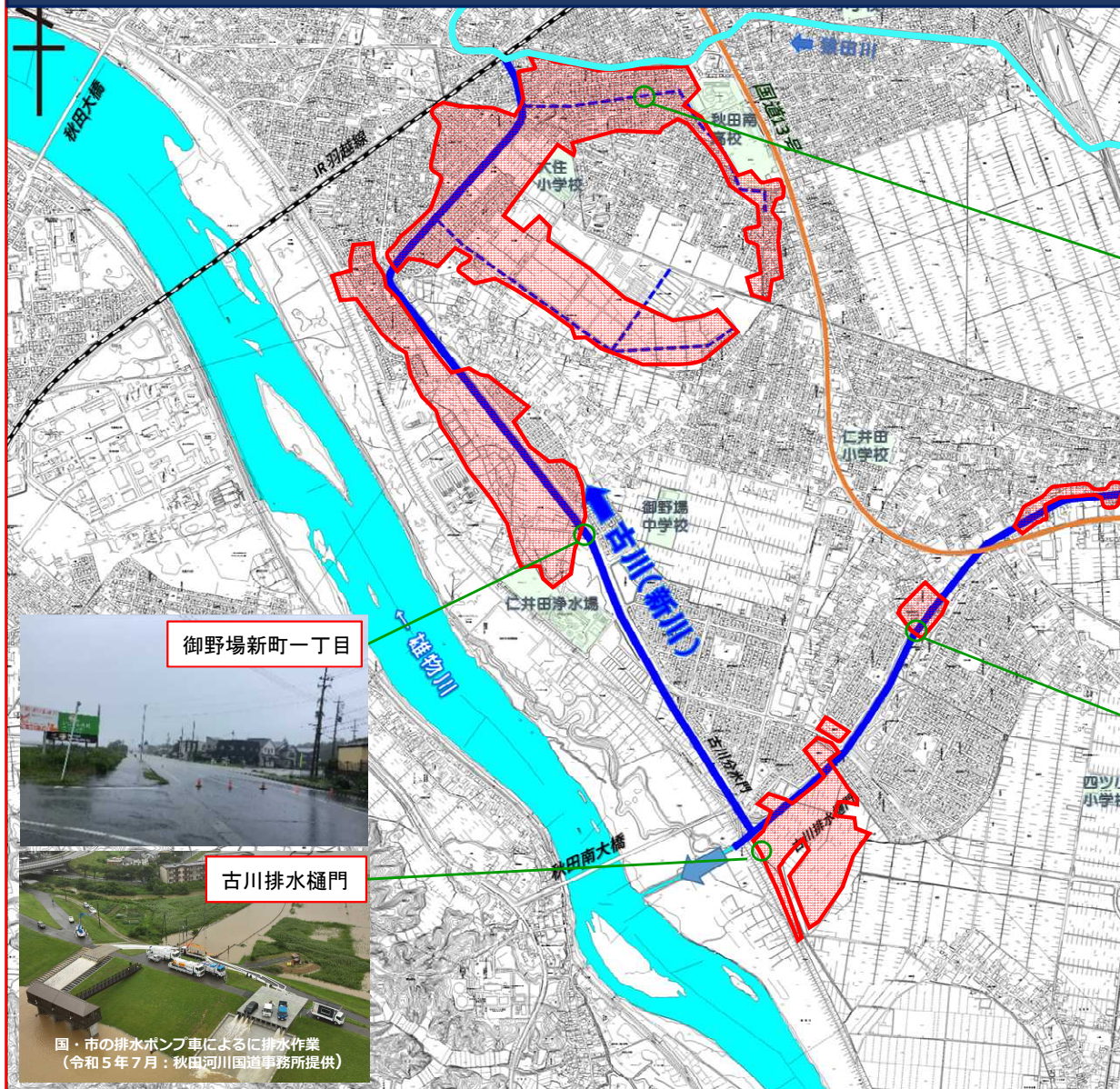
治水対策の進捗状況について

1 古川流域の総合的な治水対策協議会の取組みについて


1 古川流域の総合的な治水対策協議会の取組みについて

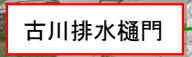
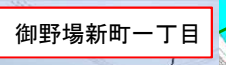
- 古川は、一方は古川排水樋門から雄物川へ、もう一方は猿田川へと流れる市管理の普通河川。
- 市街化が進み、雨水の流出量が増加し、近年、気候変動の影響もあって、浸水被害が頻発化。

(1) 令和5年7月豪雨 古川流域の主な浸水範囲



床上床下浸水被害件数			
地区名	平成29年7月	平成30年5月	令和5年7月
牛島	27件	29件	503件
仁井田 (潟中町、潟中島、新中島、 西潟敷、二ツ屋、福島、目 長田、小中島、落見町)	112件	21件	260件
御野場	2件	-件	-件
大住一丁目 大住二丁目	129件	116件	501件
合計	270件	166件	1,264件

凡例  : 浸水範囲(想定)



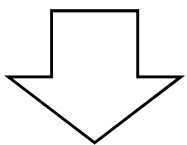
国・市の排水ポンプ車による排水作業
(令和5年7月: 秋田河川国道事務所提供)

(2) 古川流域の総合的な治水対策協議会の設立

国、県、市の3者が一体となり、浸水被害の軽減に向けた対策を検討するため、平成30年8月に「古川流域の総合的な治水対策協議会」を設立し、令和元年12月に対策をとりまとめた。

浸水被害の要因分析

- 雄物川水位の影響（外水位）
- 猿田川水位の影響（背水）
- 雨水管の排水先の水位の影響
- 古川の流下能力不足



被害軽減目標

平成29年7月豪雨と同規模の洪水に対し、

「床上浸水被害の解消」を目標とした。

古川流域の総合的な治水対策協議会 実施状況

	開催日	協議内容
第1回	H30.8.17	協議会の設立
合同現地調査	H30.10.11	現状把握
第2回	H30.11.20	取組状況の共有
第3回	H31.3.26	治水対策のあり方
第4回	R1. 8.2	複合案の検討
第5回	R1.12.24	役割分担、整備スケジュール
第6回	R4.3.23	進捗状況の確認
第7回	R5.3.23	進捗状況の確認
第8回	R6.3.22	進捗状況の確認
第9回	R7.5.28	進捗状況の確認
第10回	R8.5.29	進捗状況の確認

対策内容を
とりまとめ

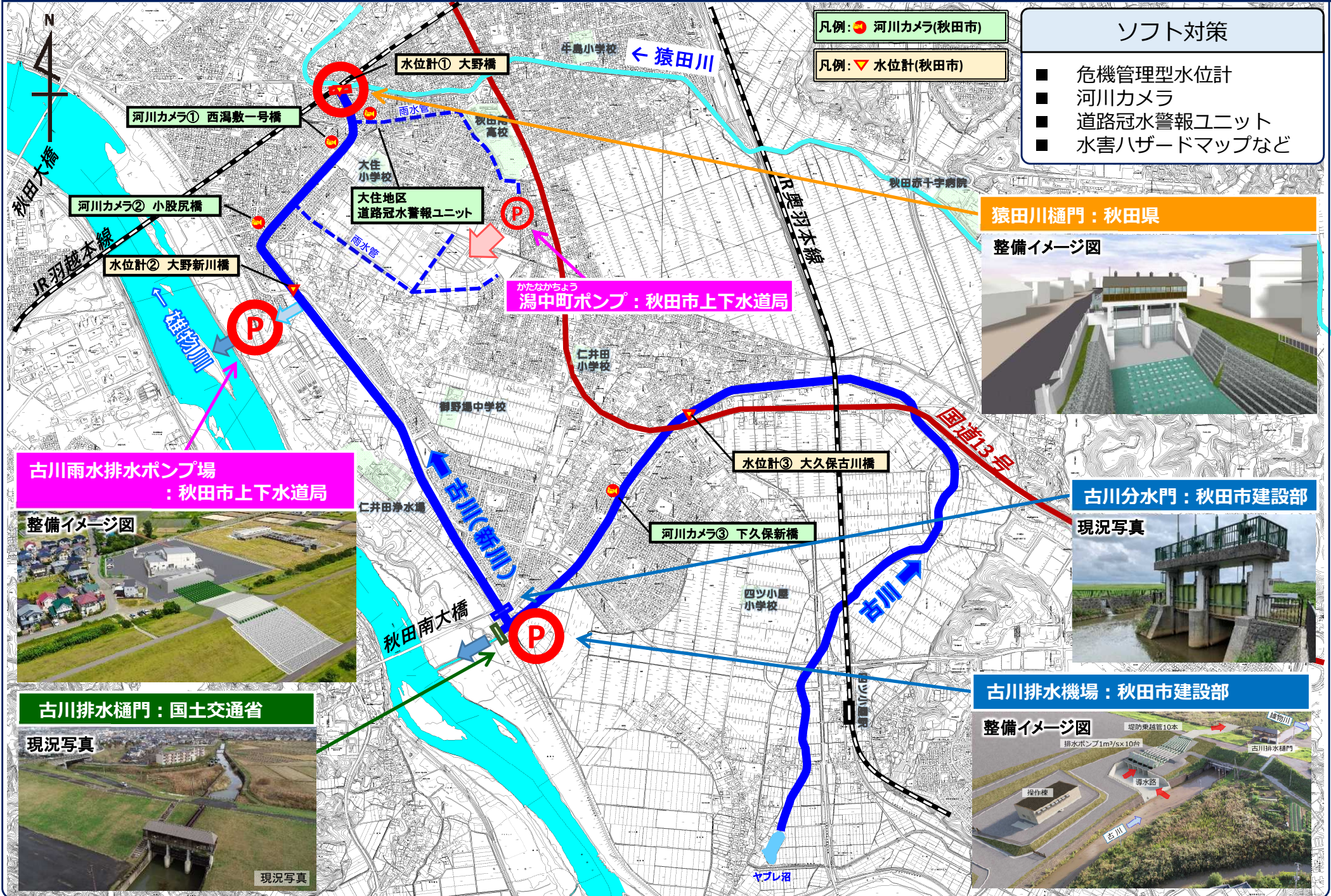


合同現地調査



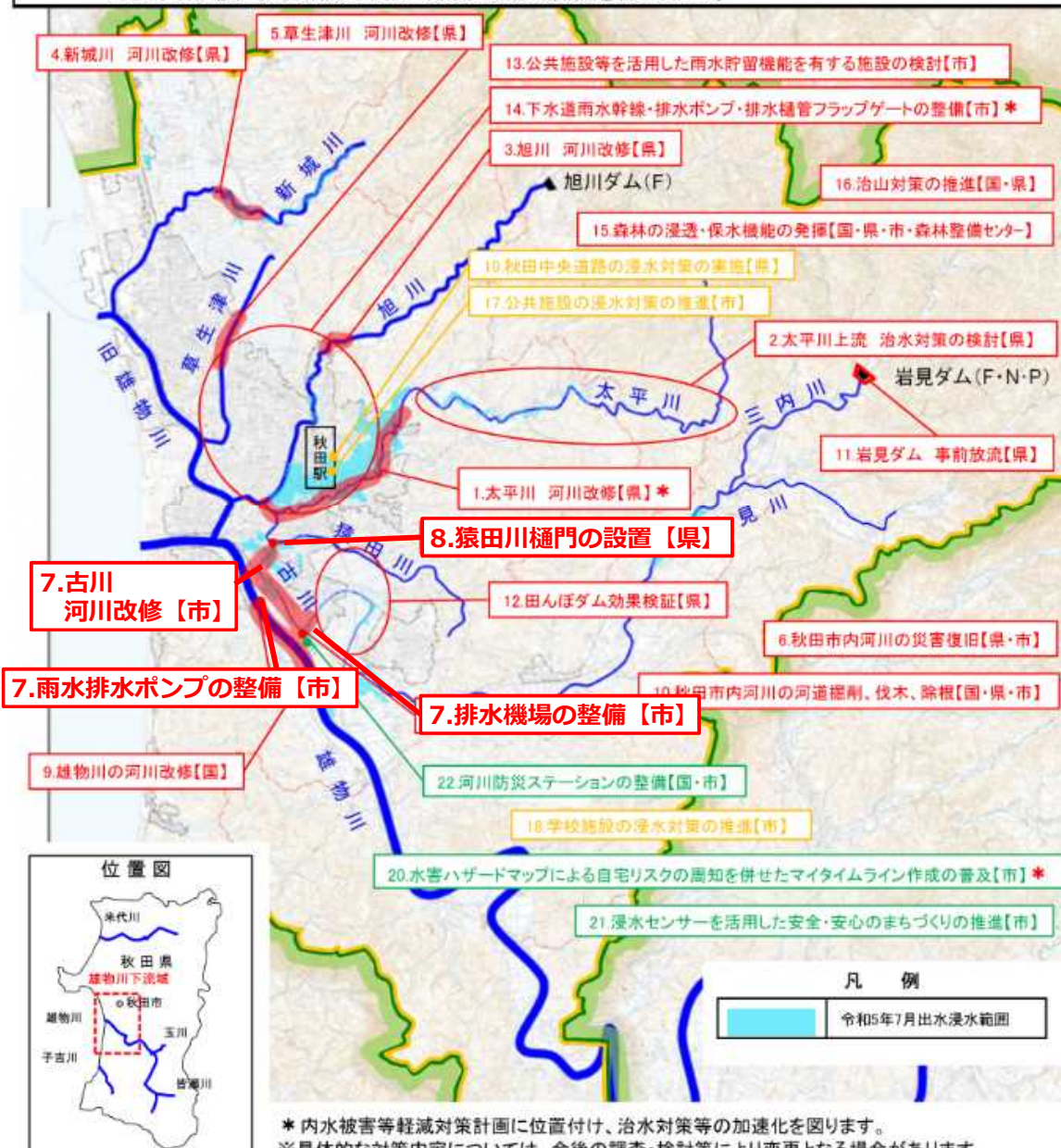
第10回協議会

(3) 古川流域の総合的な治水対策 概要図



(5) 雄物川下流圏域 水災害対策プロジェクト

- 令和5年7月15日から大雨により、太平洋川の越水をはじめ秋田市街地の大規模浸水被害が発生したことから、雄物川下流圏域では、国、県、市等が連携し、以下の対策を実施する。
 - ・ 国は雄物川の河川改修、県は太平洋川、岩見川等の河川改修、災害復旧の対策を集中的に実施するとともに、秋田市は下水道の整備や浸水対策の検討を行い、令和5年7月と同規模の大雨による浸水被害を大幅に軽減する。
 - ・ これらの推進を図るため、内水被害等軽減対策計画(新規施策)に、太平洋川の河川改修や下水道施設の雨水幹線、排水ポンプ、フラップゲートの整備、ソフト対策等を位置付け、治水対策等の加速化を図るとともに、「流域治水」の深化に向けて、特定都市河川制度(特定都市河川の指定)を活用した取組を推進していく。
 - ・ なお、引き続き被害軽減に向けて浸水対策の検討を行っていく。



■事業期間 令和5年度～令和14年度
 ■事業費 約671億円【国:約13億円、県:約417億円、市:約241億円】
※このほか、費用が確定した段階で、事業費に追加になります
 ※事業費については今後変更となる可能性があります
 ■目標 令和5年7月と同規模の大雨による浸水被害を大幅に軽減

- 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策
- 河川区域での対策
1. 太平洋川の河川改修【秋田県】*
 2. 太平洋川上流 治水対策の検討【秋田県】
 3. 旭川の河川改修【秋田県】
 4. 新城川の河川改修【秋田県】
 5. 草生津川の河川改修【秋田県】
 6. 秋田市内河川の災害復旧【秋田県、秋田市】
 7. 古川の河川改修や排水機場等の整備【秋田市】
 8. 猿田川樋門の設置【秋田県】
 9. 雄物川の河川改修【国交省】
 10. 秋田市内河川の河道掘削、伐木、除根【国交省・秋田県・秋田市】
 11. 岩見ダム事前放流【秋田県】
- 集水域での対策
12. 田んぼダムの効果検証【秋田県】
 13. 公共施設等を活用した雨水貯留機能を有する施設の検討【秋田市】
 14. 下水道施設の雨水幹線、排水ポンプ、フラップゲートの整備【秋田市】*
 15. 森林の浸透、保水機能の発揮【林野庁・秋田県・秋田市・森林整備センター】
 16. 治山対策の推進【林野庁・秋田県】

- 被害対象を減少させるための対策
- 氾濫域での対策
17. 公共施設の浸水対策の推進(エレベーター施設等)【秋田市】
 18. 学校施設の浸水対策の推進(受変電施設、空調室外機等)【秋田市】
 19. 秋田中央道路の浸水対策の実施【秋田県】

- 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策
- 氾濫域での対策
20. 水害ハザードマップによる自宅リスクの周知を併せたマイタイムライン作成の普及【秋田市】*
 21. 浸水センサーを活用した安全・安心のまちづくりの推進【秋田市】
 22. 秋田地区河川防災ステーションの整備【国交省、秋田市】



* 内水被害等軽減対策計画に位置付け、治水対策等の加速化を図ります。
 ※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合があります。

(6) 令和7年度の取組について

■ 災害対策用排水ポンプ車排水訓練の実施

委託業者の円滑な作業技術の習得を目的とした排水訓練を実施。

日 時：令和7年 5月29日（国土交通省との合同訓練）

令和7年10月20日、31日

令和8年 3月30日 計4回実施

場 所：三角沼緑地公園



■ 古川流域の総合的な治水対策に関する説明会の開催

古川流域の総合的な治水対策事業の進捗状況等について、地域住民への周知を図るため、事業説明会を開催した。

日 時：令和7年6月29日(日) 14:00～15:00

場 所：南部市民サービスセンター 多目的ホール

参加者：80名



■ 県民防災の日啓発展示

防災意識の啓発を目的に古川の治水対策などの防災・減災対策の取組みに関するパネルや排水ポンプ車の展示を行った。

期 間：令和7年5月26日（月）～30日（金）

場 所：秋田市役所 市民ホール、市民の広場

※排水ポンプ車の展示は、5月26日のみ



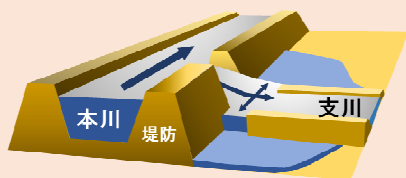
治水対策の進捗状況について

2 各整備項目の進捗状況

(1) 排水機場整備の目的

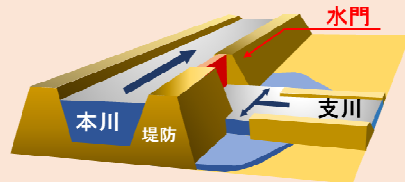
① 水門等がなかったら

本川(雄物川や猿田川)が増水した場合、支川(古川)へ水が逆流して浸水被害が起こります。



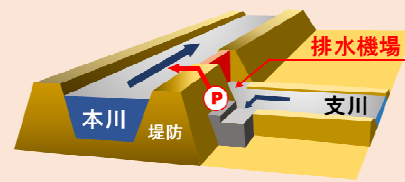
② 水門の効果

水門は、本川(雄物川や猿田川)からの逆流を防ぎます。ただし、支川(古川)の水が流れ先を失い、あふれることで浸水被害が起こります。



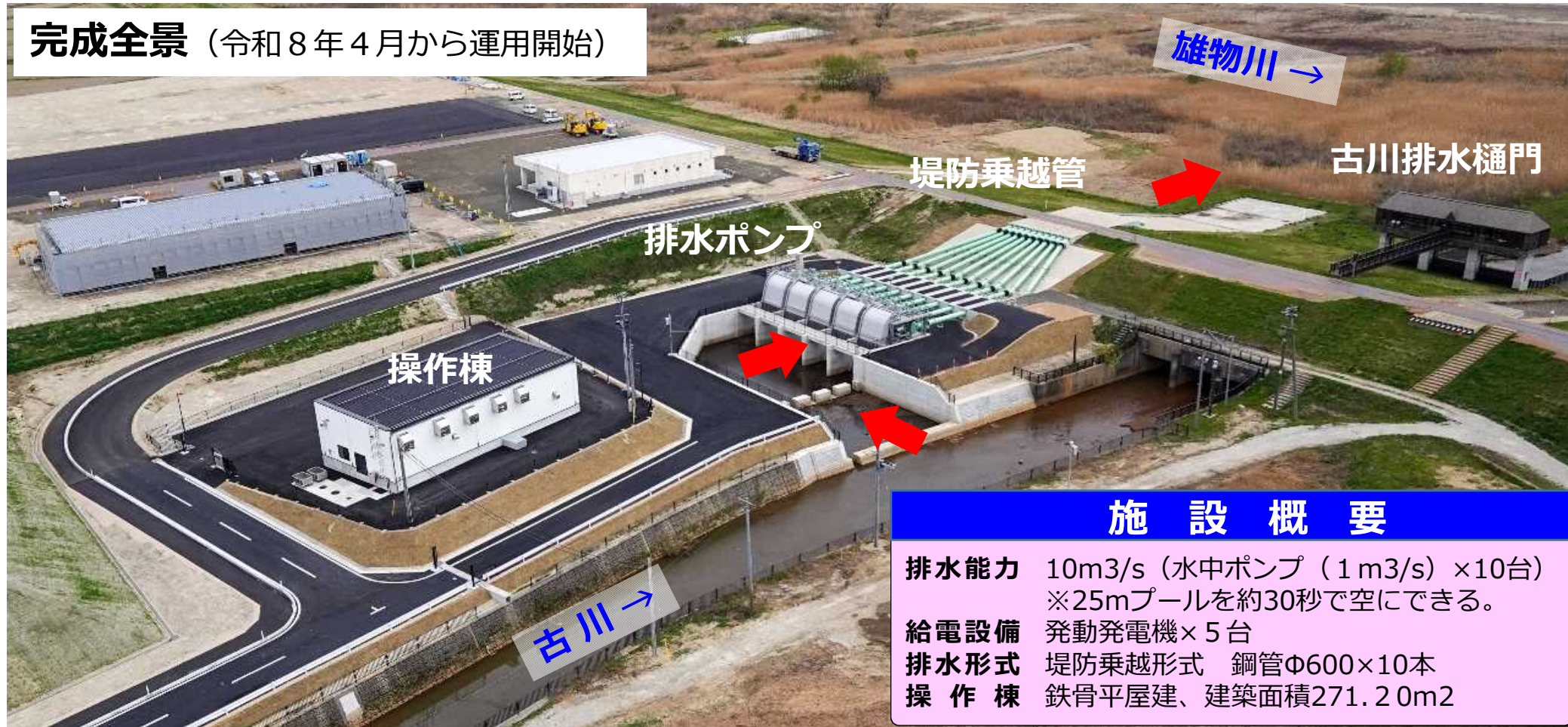
③ 排水機場の効果

排水機場は、ポンプを使って支川(古川)に溜まった水を本川(雄物川)に吐き出すことで、浸水被害の軽減を図ります。



古川排水機場：秋田市建設部

完成全景 (令和8年4月から運用開始)



施設概要

排水能力	10m ³ /s (水中ポンプ (1m ³ /s) ×10台) ※25mプールを約30秒で空にできる。
給電設備	発動発電機×5台
排水形式	堤防乗越形式 鋼管φ600×10本
操作棟	鉄骨平屋建、建築面積271.20m ²

(2) 主な整備工事のスケジュール

年度	R5	R6	R7	R8
○古川排水機場本体整備工事 施工業者 伊藤工業・英明・加藤建設 特定建設工事共同企業体 工期 令和5年9月29日から 令和8年4月23日まで 契約金額 10億 517万円(第2回変更)		基礎杭工 吸水槽、導水路 操作棟盛土	連絡道路 路盤 舗装	供用開始
○古川排水機場機電設備整備工事 施工業者 荏原・能登谷・秋田電機 建設工事共同企業体 工期 令和5年9月29日から 令和8年3月19日まで 契約金額 15億6,302万円(第3回変更)		ポンプ等工場製作	吐出配管、ポンプ、除塵機設置 発電機等設置	
○古川排水機場操作棟建築工事 施工業者 伊藤工業・加藤建設 特定建設工事共同企業体 工期 令和6年12月24日から 令和8年3月19日まで 契約金額 2億4,332万円			基礎杭工 操作棟建築 外構	



事業費（調査設計、工事）：約34.2億円

(3) 古川排水機場 完成写真

ポンプなどの排水設備



管理室



発電機室



操作棟外観

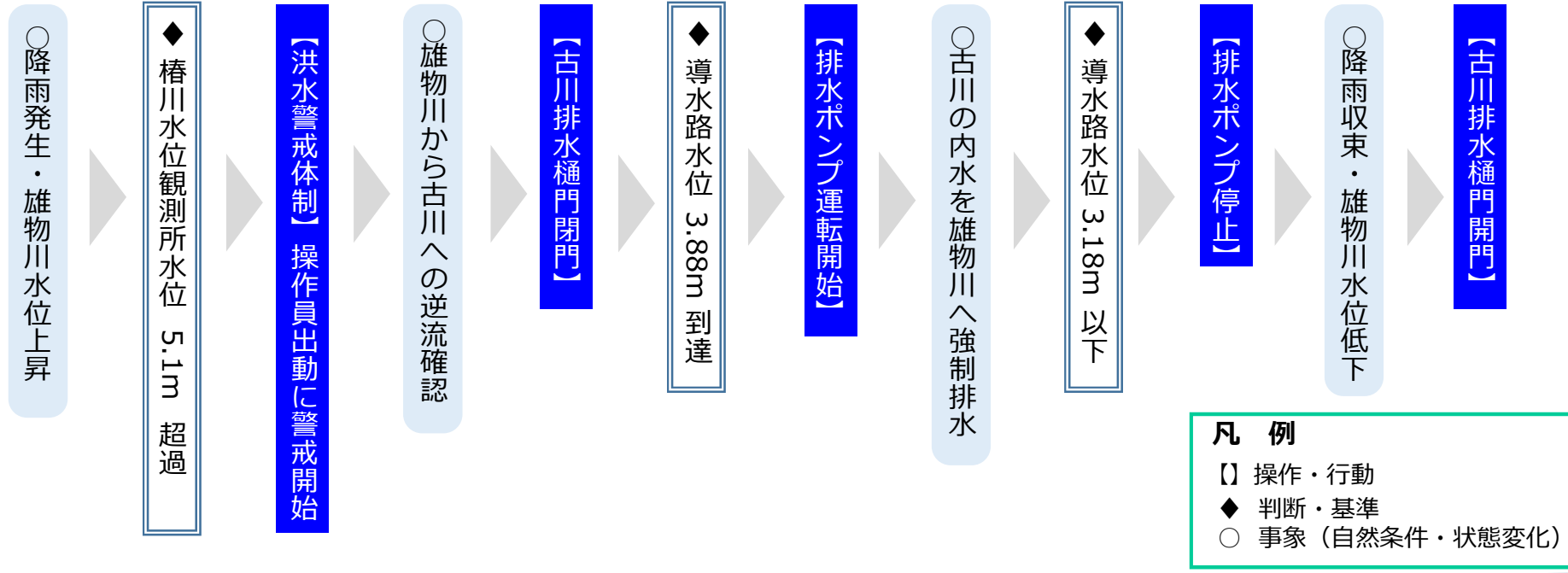


連絡道路

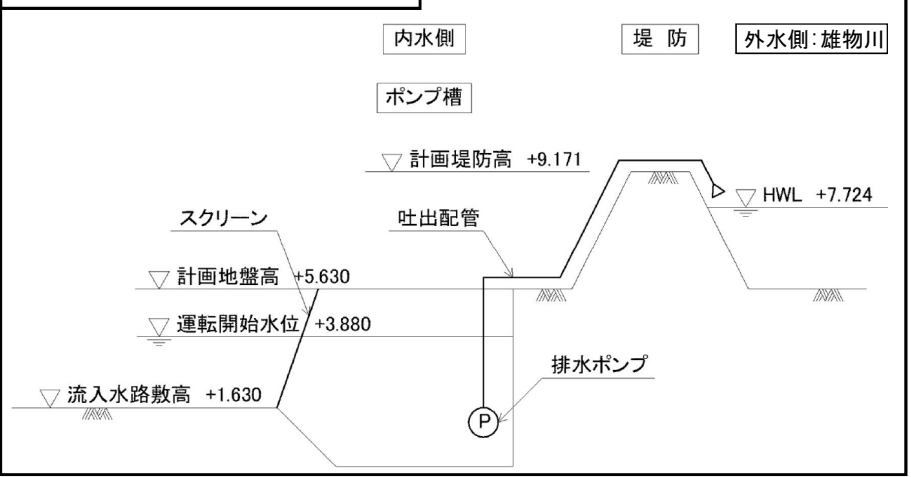


(4) 古川排水機場の運用等について

標準的な運用フロー



古川排水機場 水位模式図



広報活動

広報やSNS等による施設紹介のほか、市民等を対象とした施設見学会を開催する予定。

古川排水機場

秋田南大橋

雄物川

古川排水機場が完成しました！

水害から地

古川排水機場

完成記念

広報あきた 2026年5月1日号 見学者等へ配布するインフラカード



(1) 整備内容

● 古川雨水排水ポンプ場の整備

古川（通称「新川」）に流れ込む流域の雨水を雄物川へ強制排水するポンプ施設を整備。

● 潟中町ポンプを設置

周囲と比べ、地形的に低地である仁井田潟中町地区に、局所的に排水ポンプを設置。

● フラップゲートの設置

古川からの逆流防止を図るため、雨水管の吐き口に水位差で動作するゲートを整備。

整備イメージ図



(2) 古川雨水排水ポンプ場 整備概要

- ポンプ施設 (RC造 地上2階・地下1階)
排水能力 $11.0\text{m}^3/\text{s}$
コラム式水中ポンプ($\phi 800 \cdot 1.38\text{m}^3/\text{s}$) $\times 8$ 台
ガスタービン式発動発電機($1,250\text{kVA}$) $\times 2$ 台
吐出水槽
堤防乗越管(ダクタイトイル管 $\phi 700 \times 15$ 本)
- 引込施設
鋼板製角形電動ゲート($W4.5\text{m} \times H1.5\text{m} \times 2$ 門)
- 導水渠
ボックスカルバート($\square 2,800 \times 2,800$ L=178m)

(3) 潟中町ポンプ 整備概要

- 排水能力 $0.2\text{m}^3/\text{s}$
水中ポンプ($\phi 200 \cdot 0.067\text{m}^3/\text{s}$) $\times 3$ 台
R8年6月供用予定

(4) 施工状況

乗り越し管



引込み施設



主ポンプ



フラップ弁



(5) 整備スケジュール

年度	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9
1. 古川雨水排水ポンプ場建設工事 施工業者 熊谷・山岡・秋田舗道建設工事共同企業体 工期 令和6年1月19日から 令和9年3月24日まで 請負代金 44億4921万円		基礎杭 製作・施工		建築 躯体・設備	供 用 開 始
			ポンプ槽 土留・掘削・躯体・埋戻		
		乗越管 製作・据付		場内整備	
2. 古川雨水排水ポンプ場機械設備工事 施工業者 西島・山岡・秋田東北建設工事共同企業体 工期 令和6年3月18日から 令和9年3月24日まで 請負代金 14億305万円		工場製作等		機器設置	
3. 古川雨水排水ポンプ場電気設備工事 施工業者 本荘電気・松澤電気・ライトン特定工事共同企業体 工期 令和6年6月7日から 令和9年3月24日まで 請負代金 15億719万円		工場製作等		機器設置	
4. 公共下水道築造工事（導水渠） 施工業者 山岡・加賀屋・石黒建設特定建設工事共同企業体 工期 令和6年1月22日から 令和8年3月23日まで 請負金額 4億6135万円	製作等		土留・ボックスカルバート設置・埋戻	完成	
5. 潟中町ポンプ整備工事 施工業者 山岡・石黒JV(雨水管)、山岡工業(ポンプ施設) 工期 令和7年8月4日から 令和8年6月29日まで 請負金額 1億9386万円 (雨水管・ポンプ施設)		詳細設計		ポンプ設置・管布設	

(6) 事業費 (R5~R8)

9,650,000千円

(うち古川雨水排水ポンプ場整備費 9,200,000千円)

(1) 樋門整備の目的

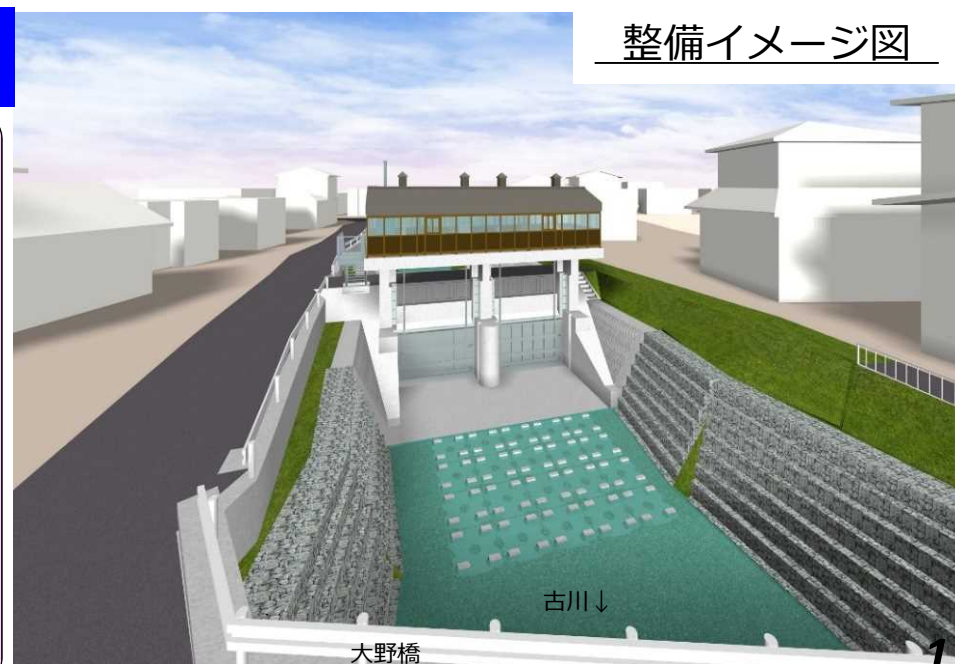
猿田川から古川への背水（バックウォーター）を防ぐために、樋門を設置します。

(2) これまでの取組

令和2年度	地形測量、地質調査、排水樋門予備設計
令和3年度	排水樋門予備設計
令和4～5年度	排水樋門詳細設計、用地測量等
令和6年度～	樋門本体工、ゲート機械設備工

(3) 整備概要

設置箇所	猿田川左岸（大野橋上流）
計画流量	21m ³ /s
樋門断面	(B)4.35m×(H)2.6m×2連
ゲート形式	引上げ式ゲート (ステンル製ローラーゲート)
仮 棧 橋	施工延長 L=127.1m



(4) 特徴

- ・ 引上げ式ゲート形式の採用により、状況に応じたゲート操作が可能となり、**各施設との連携による効率的・効果的な運用が可能**となります。
- ・ 動力と手動の両方で開閉操作が可能のため、**非常時等でも確実な止水が可能**となります。
- ・ 施設位置を古川河道内とすることにより、大野橋を取り壊さずに施工が出来るため、**周囲の交通への影響を最小限**とすることができます。

整備イメージ【樋門上流側】



(5) これまでに実施した工事



写真① 仮設栈橋(通路部)上流→下流方向



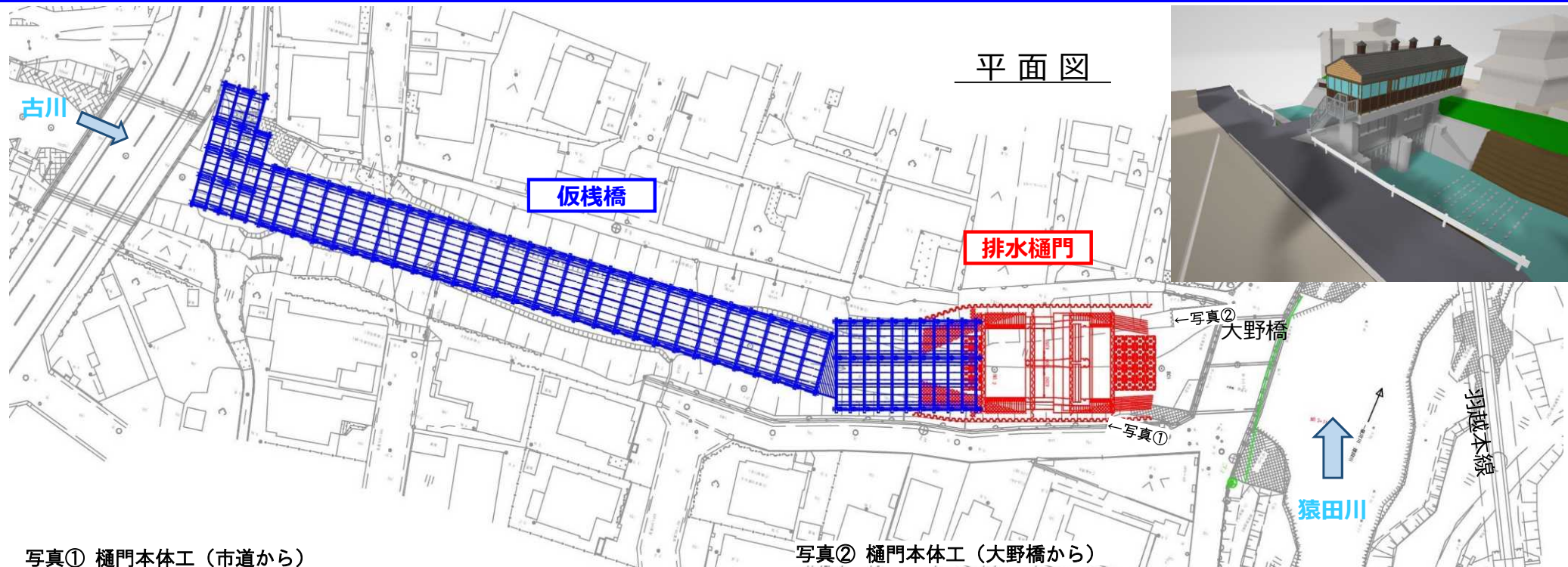
写真② 仮設栈橋(通路部)下流→上流方向



写真③ 仮設栈橋(作業構台部)上流→下流方向



(6) 現在の進捗状況



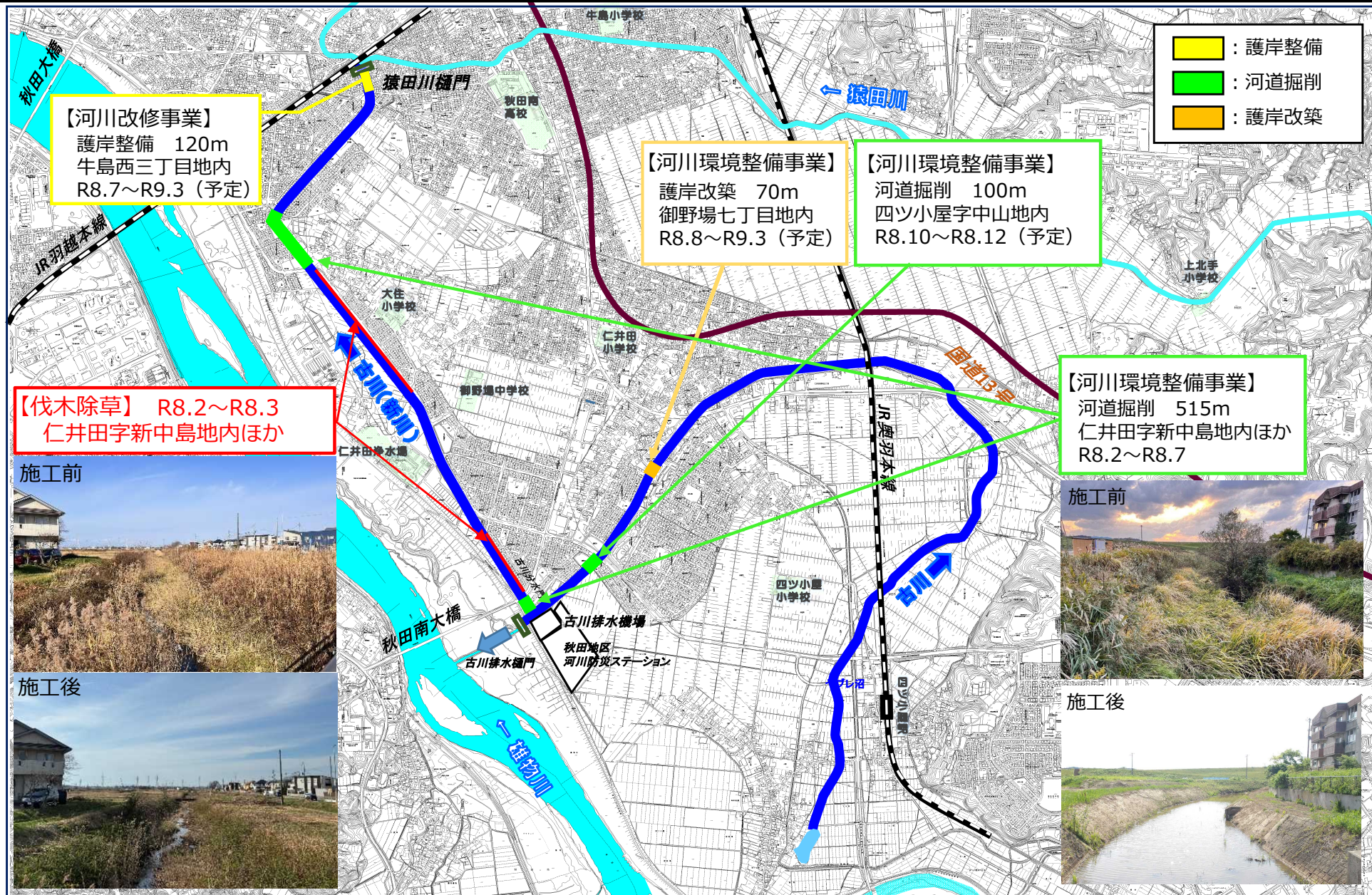
写真① 樋門本體工（市道から）



写真② 樋門本體工（大野橋から）



- 浸水被害要因の一つである古川の流下能力不足の改善のため、護岸整備や河道掘削を進めてきた。
- 平成29年度以降、護岸整備を690m行ったほか、河道掘削により約13,700m³の土砂を撤去した。
- 令和8年度は施工中の箇所を含めて4箇所で護岸の整備改修、河道掘削を予定している。
- 引き続き、排水機場等の能力を十分に発揮させるためにも、必要な箇所の河川改修等を進めていく。



治水対策の進捗状況について

3 ソフト対策について

市では、防災機能のさらなる強化を図るため、令和3年度より、排水ポンプ車を2台配備し、円滑な作業技術の習得を目的に排水訓練を実施し、災害時の出動に備えている。

国土交通省との排水ポンプ車合同操作訓練を実施

令和8年5月28日に国土交通省と秋田市がそれぞれ保有する排水ポンプ車で大雨による洪水被害に備えて、実際にポンプを設置して排水作業を行う合同操作訓練を実施した。



古川の河川カメラ等の映像配信を令和4年4月から開始。より多くの市民に活用されるよう、複数の媒体で配信しているほか、広報あきた等での広報活動を行った結果、しーなアプリでは近年も、年間1万以上ダウンロードされており累計7万6千以上ダウンロードされている、引き続き広報活動等に努めていく。

箇所図

ネットワークカメラ

- 沿川に3台設置
- 赤外線照明機能で夜間視認性を確保
- 水位の目安となる量水標を設置

配信方法

(1) 市ホームページ

(2) しーなアプリ (CNA公式無料アプリ)

(3) 秋田ケーブルテレビ
コミュニティチャンネル
秋田LIVE (121ch)



広報活動

- 広報あきた 5月1日号
- 住民説明会 6月29日開催

広報あきた 2026年5月1日号

YouTube紹介

YouTubeの秋田市公式チャンネルで河川カメラの紹介をしています

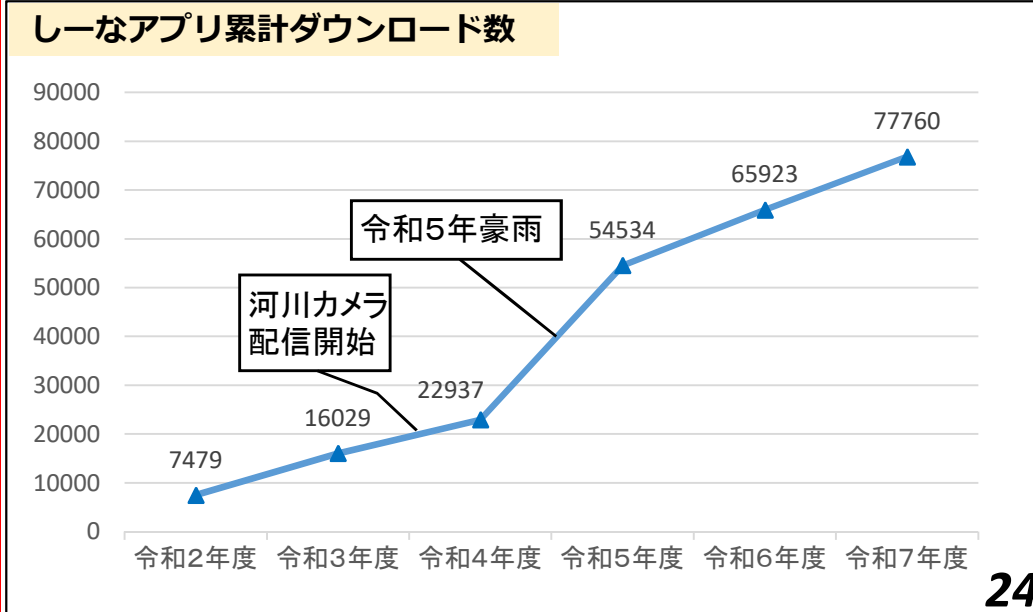
動画タイトル：
普通河川古川の河川カメラについて

動画リンクQRコード→

量水標の見方

- 冠水開始水位
- 危険水位
- 警戒水位

河川カメラの観測地点には、河川の氾濫の危険度を示す「量水標」が設置されています。



- ・市では、令和6年度より国が行う「ワンコイン浸水センサ」実証実験に参加し、令和5年7月の豪雨で浸水被害を受けた地区など30か所に浸水センサ(検知器)を設置した。(うち10箇所は令和7年8月に追加)
- ・国土交通省の浸水センサ表示システムが一般公開され、誰でも浸水状況がリアルタイムで確認できる。
- ・令和6年7月降雨において、浸水センサからの信号により、仮設ポンプ設置、撤去のタイミングを判断した。(実証実験参加者情報共有会議にて、活用事例として発表を行った。)
- ・今後、引き続き効果の検証を行いながら、災害対応のほか、市民の避難行動の参考としてもらうよう、浸水情報の発信などに活用する。

浸水センサ検知状況 飯島新町三丁目 R7/9/2



国土交通省 浸水センサ表示システム



浸水センサ表示システム : <https://c-sensor.river.go.jp> →